

令和7年度 全国学力・学習状況調査の概要

江別市立江別第二小学校

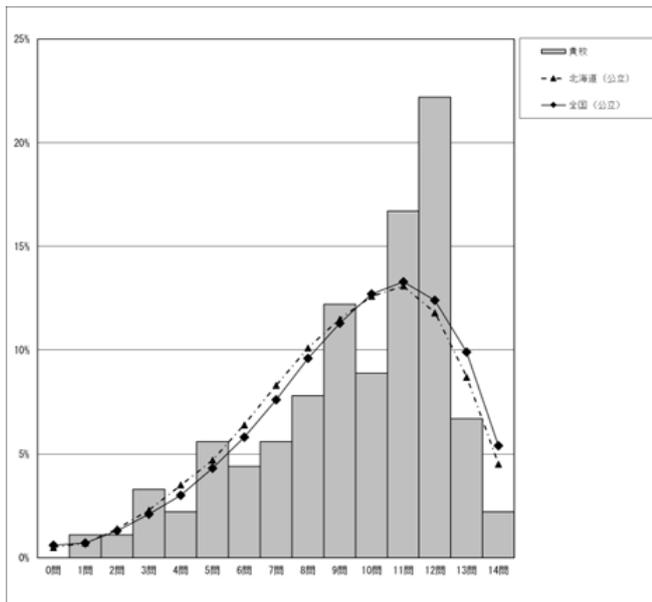
4月に6年生が実施しました全国学力・学習状況調査の本校の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。個人票は、7月25日に6学年児童を通じて配付していますので、ご確認ください。

< 教科に関する調査結果 >

*全国平均と比較して、「上回る」「やや上回る」「同様である」「やや下回る」「下回る」で表記しています。

【国 語】 全国平均と比べて、同様の結果でした。

□正答数分布グラフ（全14問）



□観点別正答率（全国比）

- ・知識・技能 ⇒上回る
- ・思考・判断・表現 ⇒同様である

□領域別正答率（全国比）

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項 ⇒上回る
- ・情報の扱い方に関する事項 ⇒同様である
- ・我が国の言語文化に関する事項 ⇒やや上回る

- ・話す・聞く ⇒同様である
- ・書くこと ⇒やや上回る
- ・読むこと ⇒下回る

【全国平均に比べ正答率が高かった問題例】

1. 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを記述する問題
目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、書き表し方を工夫することができていました。

2. 漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題

「好み」「暑い」を正しく書いていました。2問ともに全国平均を上回っていました。

【全国平均に比べ正答率が低かった問題例と改善策】

1. 目的に応じて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる選択式の問題

必要な情報を見付けるために、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが難しかったようです。

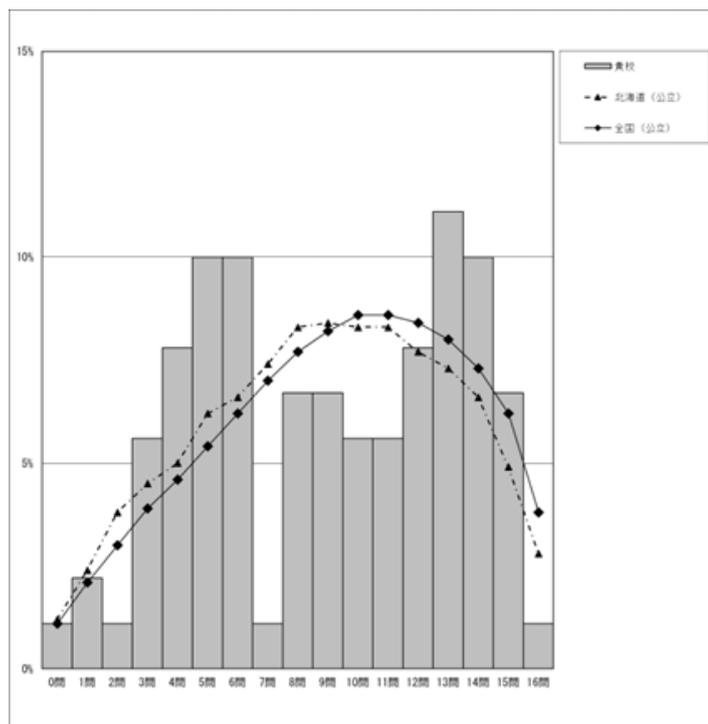
2. 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える問題

どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を捉え、それを手掛かりに内容を正確に理解することが難しかったようです。

⇒言葉を自分の経験や感覚とつなげる活動を通して構造と内容を捉えることができるようにして「読むことの楽しさ」を実感させることで、子どもたちの“読み取る力”を高めていけるように取り組んでいきます。

【算 数】 全国平均と比べて、やや下回る結果でした。

□正答数分布グラフ（全16問）



□観点別正答率（全国比）

- ・知識・技能 ⇒ やや下回る
- ・思考・判断・表現 ⇒ やや下回る

□領域別正答率（全国比）

- ・A 数と計算 ⇒ 同様である
- ・B 図形 ⇒ 下回る
- ・C(1)測定 ⇒ 下回る
- ・C(2)変化と関係 ⇒ やや上回る
- ・D データの活用 ⇒ やや下回る

【全国平均に比べ正答率が高かった問題例】

1. 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす問題

日常生活に関わる問題で、ある数量を調べようとするときに、関係のある数量を見だし、それらの数量の関係を把握して、問題解決の見通しをもつことができていました。

2. 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題

データの特徴や傾向から導いた結論について、表から根拠となる数に着目することができていました。

【全国平均に比べ正答率が低かった問題例と改善策】

1. 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題

棒グラフから、項目間の倍の関係を読み取ることが難しかったようです。

2. 台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題

台形の意味や性質について理解し、方眼上の四角形を台形と捉えるために、向かい合った一組の辺が平行であることに着目することが難しかったようです。

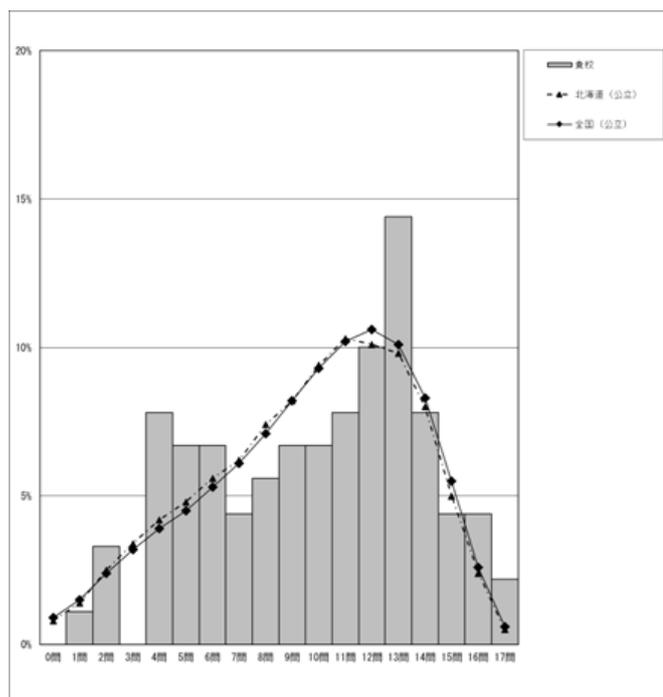
3. 基本図形に分割する図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題

五角形の面積を求めるために、既習の求積可能な二つの図形を見だし、二つの図形のそれぞれの面積の求め方を筋道を立てて考察することが難しかったようです。

⇒グラフから目的に応じた特徴や傾向を捉えることができるように指導していきます。また、図形を「見る」「動かす」「説明する」という体験を重ねることで、図形の理解を直感的なイメージから論理的な構造へと橋渡し、図形を形成する要素とその関係に着目して考察する習慣を身に付けることができるように取り組んでいきます。

【理 科】 全国平均と比べて、同様の結果でした。

□正答数分布グラフ（全 14 問）



□観点別正答率（全国比）

- ・ 知識・技能 ⇒ やや上回る
- ・ 思考・判断・表現 ⇒ 同様である

□領域別正答率（全国比）

- ・ 「エネルギー」を柱とする領域 ⇒ 同様である
- ・ 「粒子」を柱とする領域 ⇒ やや上回る
- ・ 「生命」を柱とする領域 ⇒ 上回る
- ・ 「地球」を柱とする領域 ⇒ やや下回る

【全国平均に比べ正答率が高かった問題例】

1. 花のつくりや受粉について理解できているか、発芽の条件について解決の方法を発想しながら問題を解決できるかどうかをみる問題

顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているようです。また、レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができていました。

2. 水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く問題

水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができていました。

【全国平均に比べ正答率が低かった問題例と改善策】

1. 乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題 乾電池のつなぎ方と、電極の向きを選択する問題。特に、直列つなぎと並列つなぎの特徴を理解して電池のつなぎ方を選択することが難しかったようです。

2. 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて選択する問題

「氷がとけてできた水は海に流れていく」の根拠として、「水は、高い場所から低い場所へ流れる」を選択することが難しかったようです。

⇒ 差異点や共通点を基に新たな問題を見だして表現することができるように、実験の方法を想定したり、実験結果を基に他の条件での結果を予想したりすることに取り組み、改善を図っていきます。

【 児童質問 】

児童質問調査については、全国と比べて肯定的な回答が多かった（少なかった）質問をいくつか紹介します。
*肯定的な回答 = 当てはまる + どちらかと言えば当てはまる

【肯定的な回答が多かった主な質問】

1. 自分にはよいところがあると思う。
2. 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
3. 普段の生活の中で幸せな気持ちになることはありますか。

<見 解>

三項目とも全国の調査結果と比べて高い割合となっています。これからも受容や共感、承認や称賛を大切にしながら子どもたちと接していき、現在、そして未来に前向きな思いをもてる子どもたちを育てていきたいと思います。

4. 5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。
5. ICT機器な活用について、自分のペースで理解しながら学習を進められますか。

<見 解>

日常的に活用しており、全国の調査結果と比べても高い割合でした。目的をもってICTを使いこなし、自分の学びに役立つ使い方は何かを自ら考え、使い分けることができるように活用していきます。

6. 5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて自分で考え、自ら取り組んでいたか。

<見 解>

全国の調査結果と比べて高い割合でした。「なりたい自分」に向かったの目標の設定が課題解決に向けて自分で考え、自ら取り組んでいくことにつながっていると思われます。課題解決とともに「振り返り」を大切に、目標の設定、評価、改善の学習のサイクルを習慣化させていきます。

【肯定的な回答が少なかった主な質問】

1. 国語の勉強は好きですか。
2. 算数の勉強は好きですか。

<見 解>

国語、算数を「好き」と感じている子が全国と比べて少ない割合でした。しかし、「社会に出たときに役に立つ」という質問では、全国を上回る結果になっています。「理科の勉強は好きですか」は全国平均を大きく上回っているため、国語、算数においても「よく分かる」ことを大切に、学ぶ楽しさにつなげるような授業改善に取り組んでいきます。

本調査結果と2～5学年で行っている標準学力検査の結果等を踏まえ、学力向上に向けた計画を作成し、授業改善に取り組み、これからの教育活動を推進していきます。